

一緒にがんばる

復興の助っ人たち

⑰

東京都の葛飾区役所で道路や下水道の工事を長年経験し、定年退職後も非常勤職員として働いていた。被災地でのボランティア活動を機に、「被災地を自分の目で見て、もう歳

だけど自分に何かで

きることがあるはず」と宮城県の任期

「自分にできることは何か」

県任期付き職員で東京から気仙沼へ

上田 勉さん (64)

付き職員に応募した。から。一刻も早く元の姿に戻るための力



自宅は映画「男はつらいよ」で有名な葛飾区柴又。家族を残しての単身赴任で、階上中の仮設住宅で暮らす。奈良県生まれ。

派遣先は気仙沼市の水産基盤整備課で、任期は2年。担当する漁港の災害復旧は、初めてのことで、戸惑うこともあるが、「復興が本格化するのはい

きることがあるはず」と宮城県の任期

派遣先は気仙沼市の水産基盤整備課で、任期は2年。担当する漁港の災害復旧は、初めてのことで、戸惑うこともあるが、「復興が本格化するのはい

きることがあるはず」と宮城県の任期

部の旅を楽しんでいる。気仙沼線の線路跡をバス専用道にしたBRTも利用し、「30分に1本走っているのは便利」と感じつつも、気仙沼線の鉄路復旧を願っている。

感謝の言葉

水産基盤整備課長の広瀬宜則さん

「課内の職員26人のうち16人を全国からの派遣に頼っており、応援職員の力がなければ復旧・復興は進まなかった。水産基盤の整備を経験した人は少なく、慣れない仕事なのに皆さん努力して頑張ってくれている。ありがとうございます」
毎週金曜日に掲載

うになった。大島で開かれた歓送迎会で食べた新鮮なホタテの味に驚き、震災前はもっと魅力的な港町だったろうと思いをさせた。趣味は町歩きと鉄道。津波被害で市街地に散策コースがないことは残念だが、休日にはホリデーパスを使って東北内陸